

## 「南海トラフ地震にどう向き合うか

## ～専門職と住民の果たす役割はどんなちゅう？～

### ～開催趣旨～

南海トラフ地震は、今後30年以内に発生する確率が70～80%と見込まれています。高知県においても、大きな被害が予想され、津波避難タワーの建設などが進められています。

しかし、多数の被害者を出した東日本大震災においてすら、津波到達速度が最短25分であったのに対して、南海トラフ地震は最短3分と予測されています。そのような大震災に対して、保健・医療・福祉の専門職は、どう向き合えばよいのでしょうか？また、住民自身が主体的に向き合っていくためには、どうすればよいのでしょうか？危険が差し迫る中で、真剣に向きあい、議論し、実践につながるシンポジウムを開催したいと思います。

南海トラフ地震等の災害時においても事業所ベースの持続可能性を図るために、介護等の事業所ではBCP（事業継続計画）の策定が来年（令和6年）から義務づけられます。災害時派遣型の専門職チームとしては、DMAT（災害派遣医療チーム）や、DPAT（災害派遣精神医療チーム）、DWAT（災害派遣福祉チーム）、JRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）等の役割が期待されています。南海トラフ地震に備えて、専門職間連携をどのように図っていくべきかが重要なポイントになります。

住民の避難行動も含めて、専門職との連携・支援を受けながら、住民主体の個別支援の取り組みをどのように進めていくべきかも重要になります。高知県内では、災害対策基本法（第40条、42条）に基づき、高知県および県内市町村の地域防災計画は立てられていますが（義務）、高齢者や障害者らの避難行動要支援者のための市町村の個別避難計画（第49条の14）の取り組み（努力義務）は、まだ不十分な状況にあります。

さらに、地震発生に備えるだけでなく、発災後からコミュニティ再建までの長期的なコミュニティ形成のあり方が問われます。東日本地域（岩手・宮城・福島）では、避難所段階→仮設住居段階→復興住宅段階の各局面を経ても、なお、孤独死や社会的関係づくり、医療・介護、生活・就労、帰還困難などの諸課題に直面しています。そのような中で、小さな地域拠点を生かした見守り、居場所づくり、相談支援、就労支援なども進められています。

それらを考え、実践していくうえで、とりわけ、高齢者や障害児・者（特に医療的ケア児・者）、性的マイノリティらの避難行動要支援者の当事者の視点に立った専門職と住民の連携のあり方を考えたいと思います。

- ◆開催日 令和5(2023)年11月5日(日) 13:00～16:30
- ◆会場 高知県立ふくし交流プラザ 2F 高齢者能力開発室 (高知市朝倉戊 375-1)  
【会場・オンライン(ZOOM)併用開催】
- ◆定員 オンライン: 100名、会場: 25名 (先着順)
- ◆主催 高知県リハビリテーション研究会  
～高知県に地域リハビリテーション※の理念を普及させる～
  - ・大会長 宮本 寛 (高知県リハビリテーション研究会 会長)
  - ・実行委員長 田中きよむ (高知県リハビリテーション研究会 理事)
- ◆後援 高知県



◆参加費 会員無料、非会員1,000円（学生は無料）

※ オンライン参加の方は、事前にご入金ください。  
会場参加の方は、当日、会場でお支払いください。

会員にはつぎの特典がありますので、この機会に是非ご加入ください。

- 【特典】
- ・オンライン勉強会（年5回）の参加費が無料
  - ・オンライン勉強会や研究大会の録画が視聴できる
  - ・理事定例会への参加及び自由発言ができる、会員同士つながる

◆参加方法 下記のURLまたは、右の二次元コードからお申込み下さい。

<https://rihaken4.wixsite.com/55taikai>



～ URL 及び二次元コードからの申込みが難しい場合 ～

別紙 参加申込書により、10月25日（水）までに、事務局あてにFAX又はEメールでお申し込みください。お申込み後、非会員のオンライン申込者には、事務局から参加費の振込先口座をメールでお知らせしますので、事前にご入金ください。（原則、ご入金後の返金はできませんのでご注意ください。）

【日程】

- 12:30～ 会場受付・ZOOM入室可能
- 13:00～13:05 開会  
開会挨拶 宮本 寛 （第55回高知県リハビリテーション研究大会長）
- 13:05～13:55 基調講演「東日本地域に学ぶ震災と震災後のコミュニティづくり」  
講師：田中 きよむ（高知県立大学社会福祉学部教授、  
高知県リハビリテーション研究会理事）
- （休憩）
- 14:00～16:30 パネルディスカッション  
「南海トラフ地震にどう向き合うか、  
～専門職と住民の果たす役割はどうなっちゃう？～」
- パネラー
- ・安岡しずか氏（一般社団法人高知在宅ケア支援センター総括管理者）
  - ・浜永 鈴美氏（日高村社会福祉協議会事務局長）
  - ・福島 富雄氏（脳卒中リハビリ研究所）
  - ・宮田 真氏（レインボー高知代表）
- コメンテーター
- ・中井 寿雄氏（高知県立大学看護学部准教授）
- コーディネーター
- ・田中きよむ（高知県立大学社会福祉学部教授、  
高知県リハビリテーション研究会理事）
- 16:30 閉会  
閉会挨拶 田中きよむ（第55回高知県リハビリテーション研究大会実行委員長）

※「地域リハビリテーションとは」

障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべてを言う。（「日本リハビリテーション病院・施設協会」の定義より）

## 第55回高知県リハビリテーション研究大会 参加申込書

\*参加申込 URL 及び二次元コードからの申込みが難しい場合にご使用ください。

	記入例	申込欄
参加方法 (※2)	<input checked="" type="radio"/> 会場 <input type="radio"/> オンライン	会場 ・ オンライン
参加区分	会員 <input checked="" type="radio"/> 非会員 <input type="radio"/> 学生	会員 ・ 非会員 ・ 学生
フリガナ	コチ ハコ	
お名前	高知 花子	
フリガナ (※3)	アールアイイーハイフンケーイーエヌ@アールアイ イーエトットエイトットジエビ	
E-mail	riha-ken@riha.ne.jp	
電話番号	<input checked="" type="radio"/> 自宅、勤務先、携帯] 088-×××-××××	[ 自宅、勤務先、携帯 ] — —
勤務先又は 学校名 (※3)	〇〇△△	
業種	医療、保健、 <input checked="" type="radio"/> 福祉、その他	医療 ・ 保健 ・ 福祉 ・ その他 ( )
お住まいの 都道府県	<input checked="" type="radio"/> 高知県、( ) 都道府県	高知県 ・ ( ) 都道府県
<b>会場参加をご希望の方は、以下の項目にもご記入ください。【非会員のみ】</b> (*ご記入がない場合、領収証宛名は参加者名で発行いたします)		
領収証の 宛名	デイサービス高知家	

※1 上記に記入のうえ、**10月25日(水)までに**FAX又はEメールにて事務局までお申込みください。

※2 会場参加は、お申込みの先着順(定員25名)です。定員に達した後のお申込みの方は、オンラインでの  
ご出席となりますので、あらかじめご了承ください。

※3 E-mailを手書き記入する場合は、フリガナもご記入ください。勤務先は、お構わない方はお答えください。

※4 参加申込書により知り得た個人情報は参加管理にのみ使用します。

高知県リハビリテーション研究会事務局  
 社会福祉法人高知県社会福祉協議会 福祉研修センター(広瀬)  
 〒780-8567 高知市朝倉戊375-1 県立ふくし交流プラザ内  
 TEL 088-844-3605 FAX 088-844-9443  
 Eメール rihaken@rihaken.sakura.ne.jp  
 ホームページ <http://rihaken.sakura.ne.jp/rihab/>

